旭川市市民参加推進会議（令和４年度第５回）会議録

日　時　　令和５年１月３１日（火）　午後６時３０分～午後８時３０分
場　所　　旭川市職員会館３階６号室
出席者　　委員１１名
　　安住委員，伊藤委員，川瀬委員，小松委員，佐藤委員，白川部委員，田古嶋委員，谷委員，中込委員，羽藤委員，宮田委員（５０音順）
　　事務局４名
　　林部長，平尾課長，熊沢係長，田母神主査
傍聴者　　なし
資　料　　資料20 意見書～第１０期（１年目）における審議のまとめ～（案）

Ⅰ　開会

＜事務局＞
　これから第５回旭川市市民参加推進会議を開催する。

Ⅱ　議事

１　「公募及び会議の運営に関する意見（提言）書」に盛り込む内容について

＜事務局＞
　令和４年度第５回会議を開催する。本日の配付資料，事前にお配りしている資料20意見書（案）～第１０期（１年目）における審議のまとめ～ということで事前に送付している。こちらは前回の会議においてこれまで皆さんから御提案いただいた意見をまとめたもので，それを基に意見書に盛り込むべきかどうかを審議した結果を踏まえて，盛り込むべきとした意見を再構成して作成したものである。また，前回の会議で使用した資料19を必要に応じて参照していただければと思い，今回皆さんに御持参いただいた。それでは会長に進行をお願いする。

＜会長＞
　始めに事務局に説明をしていただく。よろしくお願いする。

＜事務局＞
　既に皆さん御一読いただいているかと思うが，改めて意見書（案）の記載内容について説明する。第２回及び第３回会議にかけて，皆さんから出された意見を「公募に関する内容」と「会議の運営に関する内容」に分けてまとめたものが前回使用した資料19になる。それを基に前回の会議で審議し意見書に載せるべきとした内容をまとめ，更に追加するべきとされた内容を加えて作成したものが資料20になる。全体的な構成としては，資料19に合わせて，「公募に関する内容」を第１章，「会議の運営に関する内容」を第２章として載せている。では第１章から一つずつ見ていきたいと思う。
　第１章「公募に関する内容」に対する提言で，意見書（案）の２ページ（１）公募チラシの作成に関してからである。
　ア「開催時間について」は，公募委員に応募する際会議の時間帯や回数は重要な要素となっており，それらの内容をチラシに載せることはもちろん，昨年度に会議の実績がある場合には，実例として開催時間帯を載せるべきと考える。
　イ「会議内容の正確な周知」は，会議の中で審議する内容を事前に公募チラシにおいて伝えることはとても重要であり，会議の内容を伝える場合には，できるだけ簡単に分かりやすい言葉を使用して書く必要があるものと考える。
　ウ「公募チラシから受ける印象を意識して作成する」は，市民が公募チラシを見たときに，

気軽な発言や質問が許されないという印象を受けるものではなく，専門的知識がなくても思っていることを発言できる場であるという雰囲気が感じられるように意識して作成し，委員の感想コメントを載せることで，より一層会議の内容を身近に感じることができる。
　エ「人目を引く工夫」は，公募チラシは大半が白黒で作成されており，当初の作成の段階ではカラーで作成している場合でも，市民に配布する段階では白黒で印刷している部署も多いことから，より人目を引くためにも，イラストやカラー・色紙を取り入れることが望ましいと言える。

（２）公募に興味を持ってもらうための取組について
　ア「デジタル手法の活用について」は，デジタル環境の進展に伴い，QRコード等の電子媒体を活用した応募は広く普及しており，より多くの応募を得るため，公募においてもデジタル手法を積極的に盛り込むことが必要ということで載せている。
　イ「設置場所及び掲示について」は，公募チラシは多くの市民の目に付きやすい場所に設置するため，市役所のメインチラシコーナーにも設置し，更に附属機関全体を紹介する公募啓発ポスターや，その年度の公募一覧表等を作成し，分かりやすい場所に掲示することが望ましいと考える。なお，令和５年１１月に予定されている新庁舎への移転後についても，この取組は継続するべきと考えている。
　ウ「応募の際の負担軽減について」は，公募の際に作文を課すのは，応募者の大きな負担となることから必要最小限にとどめるべきであり，基準でもそのように規定している。会議・審議の内容から，当初から作文を課すことに真に妥当な理由があり，かつ，それが必要最小限の内容であればやむを得ないが，そのような場合を除き，作文を課すべきではないと考える。
　エ「声かけなどの市民への呼びかけ」は，施設等で附属機関を所管している部署は，イベント等で市民が来訪の際に，関わりのある団体等や施設利用者に対して声かけなどにより知らせるとの運用をしているが，審議事項への関わりの有無を問わず積極的に声かけを行うことで，より効果が期待できる。

（３）幅広い世代の参加を促すための取組について
　ア「若年層への働きかけについて」は，３０代以下の若年層が少ない状況で，幅広い年齢層からの意見をきくために，市内の大学や専門学校に対して声かけするのは有効であり，委員に学生がいる場合に友人を紹介してもらうなど，積極的な案内が重要であると考える。
　イ「学生枠の創設について」は，現在特定の属性に特化した重点的な登用といった制度はないが，会議の内容から学生の意見が重要といった事由がある場合など，学生に特化した枠を設けて優先的に学生を選任したり，学生に限らず各機関において審議する内容に応じて必要な人材を確保する枠を設けることは効果的だと考える。

（４）懇談会等における費用弁償
　懇談会等の報償金は附属機関の報酬と異なり，担当課が独自に決めている場合が多く，謝礼等を支給していない懇談会等は委員の交通手段等を勘案して，交通費程度は支給すべきだと考える。

（５）公募における女性割合の向上について
　女性の公募委員が増えることで全体数の底上げにも繋がり，女性が参加しやすい会議の雰囲気となることが期待される。会議の内容から，女性の参加が多く見込まれる育児や教育といった分野については，更なるアプローチで公募増が期待できるため，次年度における重点的検討事項とすることが適当と考えている。

　第２章「会議の運営に関する内容に対する提言」

（１）会議を円滑に進行するための取組について
　ア「会議において使用する用語について」は，会議の進行や会議資料において，難解な専門用語はできるだけ使用せず，特に初回の会議は分かりやすく丁寧な言葉で説明することで，参加しやすい雰囲気を創出することができるため，十分に意識して行う必要がある。
　イ「開催時間の延長について」は，会議の進行状況によっては，当初予定している時間を超過してしまう場合があるが，事務局の判断のみで延長してしまうのではなく，委員に確認する等の配慮はもちろん必要であり，初回の会議の段階でそのような場合の対応について事前に取り決めるのも有効であると考えている。
　ウ「参加しやすい雰囲気作りについて」は，公募委員の中には“どのような発言をしたらよいか”，“専門的知識がないと発言しにくい雰囲気がある”といった不安を抱きながら参加している人もおり，そのような不安を払拭するような会議作りを普段から心がけ，必要に応じて会議の前後において委員への個別フォローも大切だと考える。
　エ「参加しやすい会議の進行について」は，会長や事務局は発言回数が少ない委員がいないか周囲に気を配りながら，委員が疎外感を抱くことのないように配慮しながら進めていくことが重要であり，状況次第では直接指名して発言を引き出すことも重要である。
　オ「会議を円滑に進行するための事前準備について」は，会議を円滑に進めるために，会議の開催日よりもできるだけ早い日に資料を送付し，内容をある程度把握してもらうことが大切である。また，会議当日に聞いてみたいことや分からないこと，疑問点や意見を記入するシートがあると，効率よく会議を進めることができ，委員の意見を引き出す上でも有効と考える。

（２）若い世代の参加を増やす取組について
　ア「参加しやすい雰囲気作りについて」は，１（３）アで述べたように，若い世代の委員が少ない状況にあり，若い人の立場から見ると，周りに若い人が多い方が発言しやすい雰囲気があるので，そのような雰囲気作りは大切かと思う。
　イ「オブザーバーとしての参加」は，学生を増やす取組として，大学ゼミ等の活動の一環としてオブザーバーで参加することにより，学生がより一層会議に興味・関心を持ち，公募委員への参加に意欲的になることが期待できる取組であると考える。ただし，オブザーバーを認めるか否かの最終的な判断は，各委員の意見も踏まえた上で決定することが望ましいと言える。

（３）会議の開催時間帯について
　小さい子どもがいる家庭や，学生，社会人ではそれぞれの生活サイクルがあるので，会議に参加しやすい時間は変わってくるが，審議内容によっては重点的に意見を聞く対象とすべき世代も変化するので，現状が適切な会議時間となっていない場合は，多くの委員が参加しやすい時間に柔軟に変更することも必要だと考える。

　以上が資料20に盛り込んだ全ての意見の概要になる。この意見書の案については，庁内にフィードバックし，今後の取組に反映するよう各課に依頼する予定で考えている。本日はこの資料20について，お気付きの点や御意見等があればお願いしたいと思う。

＜会長＞
　では，１（１），１（２）という感じで皆さんに「御意見や気付いた点はないか」というふうに伺いながら進めていきたいと思うが，よろしいか。

（一同同意）

＜会長＞
　１「公募に関する内容」に対する提言の（１）公募チラシの作成に関して，内容がア，イ，

ウ，エとあるが，これらについてお気付きになった点など発言をお願いする。御意見のある方はいないか。

（一同同意）

＜会長＞
次に（２）公募に興味を持ってもらうための取組について，こちらもア「デジタル手法の活用について」，イ「設置場所及び掲示について」，ウ「応募の際の負担軽減について」，エ「声かけなどの市民への呼びかけについて」と４つある。こちらに関して何かあればその場で発言いただければと思う。

＜委員＞
イ「設置場所及び掲示について」の４行目で「附属機関全体を紹介する公募啓発ポスターを作って…」といった内容になっているが，これは各附属機関にこれを意見書として出しても，全体を統括するようなポスターをそれぞれの附属機関で作ることはないかと思うのだが，こういった公募，附属機関全体を統括する公募啓発ポスターを担当する部署はどこになるのか。

＜事務局＞
全体の統括は，現在の市民参加推進係で行うこととなる。

＜委員＞
同じイの所で，一番最後に「来庁者の目に付きやすい場所に専用コーナーを設置すべきと考えます。」とあるが，公募の募集というのは時期によってはたくさんだったり，今だったら全然なかったりと，多かったり少なかったりとあると思うが，コーナーを作るとしたらその辺りはどのようなイメージになるのか。あるいは，一年間の公募のものがそこにあるのかどうか，まだそこまでは詰めてはいないだろうか。

＜事務局＞
新庁舎移転の関係もあるので，その期間，その時点で公募を実施している機関がどれだけあるのかというのも，縮小や拡大する範囲などというところは変わってくることになると思う。

＜会長＞
その場所をという具体的な検討になるなら，また色々な内容について担当する部署が考えていくと思うが，一年間の公募の見通しなど一覧表みたいなのはあるのかと聞いたら，それは「ホームページにある」というようなことを伺ったような記憶がある。
例えば１月～１２月まで，昨年の例でも市民参加推進会議委員の募集など，そのような予定表というか昨年の公募の時のようなもの。

＜委員＞
今年の公募の一覧は，ホームページ右側の附属委員の情報・委員募集という所から，附属機関等の公募委員の募集をクリックすると今年度の一覧が載っている。

＜会長＞
広いスペースではなくても何かができるのかなと，今話を聞きながら想像を膨らませてみた。
新庁舎ができたら，私は真っ先にそのコーナーを探したいと思う。皆さんも何かアイディアがあれば，まだもう１年あるので色々と働きかけをしていけたらと思う。では，外にはないか。（２）のア・イ・ウ・エについてよろしいか。

（一同同意）

＜会長＞
　では次３ページ目（３）幅広い世代の参加を促すための取組について，ア「若年層への働きかけについて」，イ「学生枠の創設について」という二つがあるが，ここについてはいかがか。イ「学生枠の創設について」は，各機関に任せるというように読み取れるが，そういう提言ということか。

＜事務局＞
　そうである。その機関が必要とする枠に対して，そういう必要な人材をその機関の判断に任せるということを想定している。

＜会長＞
　例えば市民参加推進会議でこれを設けようとした場合に，「学生枠もあります」みたいなことを公募チラシに出す・出さないというのもその裁量の範囲ということになるか。

＜事務局＞
　枠を設けたのであれば，それをチラシに載せることで市民に周知できる形になるため，チラシに載せることで提案したいと思う。

＜会長＞
　第１１期のときは，率先してこの会議で設けるのがいいのではないかと個人的には思う。皆さんから外にないか。

＜委員＞
　「学生枠」について設けるにしても，その学生に何を期待するかを公募チラシに書いた方が良い。例えば単に若い人の枠が必要だからとりあえず学生枠としたとか，あるいは今後市でこういう施策を考えていて，学生に対する教育でこういう影響がありそうだから学生として意見を述べて欲しいなど。あと，仮に学生枠を設けるにしても，学生枠の募集がなかった場合，枠が逆に減ってしまうというリスクがあるので，それぞれの機関で学生枠がいなかったら学生ではない人を入れるとか。そういったこともあらかじめ確認した方が良いと思う。

＜会長＞
　それはそれぞれの機関に任されることになるのか。

＜事務局＞
　確かに「学生枠」を設けても学生の募集がなく，そこの枠が宙に浮いてしまうような形にはならないように，そういった場合には外の方をそこに当てはめるような取扱いができるようにというのは，その附属機関に判断として委ねて良いかと思う。

＜事務局＞
　「学生枠」というものを創設するに対して，より効果的に運用するためにはどうしたら良いかということが問われてると思うが，もし今おっしゃられたように学生枠がいなかったら，その時点での取扱いをどうしたら良いか。あとは学生枠を取り入れるに当たって，より効果的にどのように募集をかけるのか，進めるべきかというのは制度の運用ということで，附属機関の制度を担当している我々に再度練らせてもらいたいと考えている。

＜会長＞
　この「学生枠」のことについて，２の運営に関するところの（２）のイと非常に繋がっていくのかなと思う。オブザーバーの導入など制度の検討として，そこから実際に枠を設けるんだったらどんなことがいいだろうかというような意見もそこから貰うとか，当事者を中に入れた状態で，その枠を作るためにはどうしたらいいのかというようなことを検討する機関が必要かなと思う。丸投げで各課お願いしますとはならない。先ほどは第１１期はぜひこの市民参加推進会議でと話したが，難しいとは思うが御検討よろしくお願いする。
　この（３）幅広い世代の参加を促すための取組のアとイについて，外に意見はないか。

（一同同意）

＜会長＞
　次４ページの（４）懇談会等における費用弁償，（５）公募における女性割合の向上について，この二つについてお気付きの点はないか。

＜委員＞
　（５）の女性割合の向上についてということだが，具体的にはどのような形で応募者が増えるというか，どのようなことを明記すると女性が増えていくのか。例えば育児や教育などについては，多くの女性の方参加してくださいといった形で載せるということか。

＜会長＞
　具体的な取組までは踏み込んではいない，提言でとどまっているかとは思うが。

＜事務局＞
　応募チラシの中に「女性が多く活躍している委員会です」などといった文言を入れたり，そのようなことで女性が参加しやすいような方法はあるのかなというふうには考えている。それ以上の具体的な部分まではまだ。次年度以降という形で考えているところである。

＜会長＞
　チラシを見て「委員は男性も女性もいる」というのが見えるような形にすることは意識的にした方がいいかもしれない。「このような内容は男性でしょ」という先入観がある方は「男女」とか書いてもあんまり入ってこないかな，「男性２名，女性２名」とか書いても。一歩踏み込んだところまで提案してもいいのかもしれないと，御意見を出してただいて少し思えてきた。「積極的な参加をお願いします」よりもう一歩…「男性の視点，女性の視点共に考えていきましょう」など，両性に言及した方がいいのかなと思った。具体的な提案をするかどうかというのは，この意見書でそこまではもちろん盛り込まないけれど，方向性としてはそのようなことも今後の働きかけの際には入れてもいいのではないかなと思う。「意識的に言及する」というのは入れてもいいんじゃないかなと思う。（４），（５）に関して，これでよろしいか。

（一同同意）

＜会長＞
　では２「会議の運営に関する内容」に対する提言に入る。まず（１）会議を円滑に進行するための取組について，ア「会議において使用する用語について」，イ「開催時間の延長について」，ウ「参加しやすい雰囲気作りについて」，エ「参加しやすい会議の進行について」，オ「会議を円滑に進行するための事前準備について」，ここの内容に大きな課題があるのではないかというところである。ここは皆さんからの御意見もとても多かったところであり，こうして欲しいと

いう内容がきちんと反映されているか，御意見や気付いたことをお願いする。

＜委員＞
　オ「会議を円滑に進行するための事前準備について」，この会議ではないが，別の会議に参加していて宿題みたいな形で事前に準備してきてくださいというような宿題形式で出された会議があった。そのような事前に「ドリル」のようなものがあると意外と今日はこういうこと聞かれるから自分の意見を用意しておこう，となる。そのような準備するような資料があると，一般的な資料ではなくて，自分の意見を書き込めるシートを用意するというのはすごく意見が出やすいと感じた。

＜会長＞
　ドリルという表現は非常に分かりやすい。オの最後の段落に書いてあることが積極的に取り入れて欲しいところではある。外のア・イ・ウ・エに関して，この（１）のところについて，皆さんお気付きの点の発言をお願いする。
　今，オのドリルみたいに準備ができたらという話だったので，私はそれはいいと思い今回皆さんからの意見もあり取り入れることで積極的に準備していただき，効果がある反面負担になってしまうのではないかという心配もしていた。宿題をやらなきゃと会議を休む方向に引っ張っていくことになったら困るというか，そういう心配がある。実際にそのようなことはないか。

＜委員＞
　確かに何回もやって提出してくださいという形だと，頭の片隅にいつもそれがあって何日までにやらなくちゃというのがありながらも会議の前には必ずそれを見るようになる。意識的に，そこの会議の資料も膨大だったら読みにくいけれど，意識を向けるというところがいいのかなと思った。

＜会長＞
　提出してくださいということもあるのか。

＜委員＞
　提出もあった。例えばクイズ形式ではないけれど「良い・悪い」など何個か項目があって，それに対してここにチェックしたのはどうしてですか？というもの。この書き方だと，当てずっぽうや，あまり自分で文章を書かなくてもこれに対してだからこれなんだと，「A・B・C」と項目があったりとか，そのようなやり方もいいのかなと思った。それで自分で文章を書くというのは負担が大きいのかなと思うけれど。

＜会長＞
　前回の資料１９で「○×△」っていうのは非常に単純明快で，これは提出も求められなかったので，率直にやっていただけたと思う。なぜその考えに至ったのかを検討する議案について必要な場合にはいいのかもしれない。提出というのでなければ，何となく書いても自分がそれを見て，色々発言ができる手元資料であれば箇条書きでも大丈夫だろう。

＜委員＞
　事前準備について，附属機関でどのような工夫をして運営しているのか聞いてみるのも面白いかもしれない。

＜会長＞
　事前に検討して欲しい資料を作成して配付している例があったら，というのは少し知りたくは

なる。

＜副会長＞
　自分も参加している会議がコロナの影響で，一同に会する会場を用意できず文書で送ってきて，返答又は提出してくださいというのが結構あった。記入する箇所があって，気になる所は「どういう所が気になるなど書いてください」とあると，どうしてもここを埋めなきゃいけないという気持ちになる。返信用封筒も入っていて，FAXで返してくださいなど。何もありませんと出すのは少しはばかられる。真剣に見なくてはいけないし，こんなこと書いていいのかなと思いながら書いて出すと，向こうから電話で「こういうふうに書いてありましたけれども，これはどういった受け取り方だったんですか？」と返ってくるので，やはりもう少し考えて返事しなくてはいけないなと感じた時もあった。ただ，それが自分の生活の上で必要なものなら割と考えられるが，そこからかけ離れた専門的なこととなると，どう考えたらいいかなと迷った。この会議は皆さんの顔見て答えれるけれども，コロナの関係でできなかった会議は返事を出さなくてはいけないので，どうしても返さなくてはいけないと少しプレッシャーだった。

＜会長＞
　そう。ただ，やりとりするときには，こちらも分からなかったら「それについて教えてください」など返さざるを得ないことも出てくると思う。それはそれで担当課の皆さんもすごい負担でしたでしょう。委員の方々に返信や返事をして，またそれに対する返事をいただくという。対面ができなかった委員会だと必然的にそういうものを作っていることになろうか。
　今，オの資料について委員の皆さんの関心が非常に高まってしまったけれども，これも例を示せばいいというものでもないと思う。提言だけは出して，それで新年度からこれを盛り込むことにはならないのかなとは思うけれど。また皆さんの関心が高いということは踏まえつつ，今の提言はこれでということでさせていただきたいと思うがよろしいか。

（一同同意）

＜会長＞
　２の（１）のア・イ・ウ・エについて，外はよろしいか。

（一同同意）

＜会長＞
　次に（２）若い世代の参加を増やす取組について，ア「参加しやすい雰囲気作りについて」，イ「オブザーバーとしての参加について」，こちらについてはいかがか。何かあれば発言お願いする。

＜委員＞
　ア「参加しやすい雰囲気作りについて」の「若い人が発言できるような雰囲気作りは大切」と書いてあるが，そのことを各附属機関に言っても具体的に何をしたらいいのかというような意見が出ると思う。実際発言できるような雰囲気作りとはどんなことが必要か，具体的な例を入れた方が良いと思った。前のページに若い人が多い方が良いということで，これは具体性があると思うが，これも状況によって委員の編成が難しい場合もある。附属機関での会議の雰囲気作りについて，実際どのようなことをやるものかなというのは各附属機関にこれを渡されても割と分かりにくいと思うので，この意見を言った方がどんなイメージで言ったかなど追加して入れたら良いと思った。

＜会長＞
　私個人のここの提言の捉え方が，この今のイのところは，その前の５ページの円滑にするための取組のウとエ，これを取り入れていけば委員の個人の方の発言を促すというところに若い方も取り込めていけるのかなというふうに捉えていた。もちろん若い方が２人いたら非常に心強いとは思うけれど，恐らくそのような形にはなりにくいので，１人の場合も促すなど。それと，発言させっぱなしではなくて，皆さんもやりとりしてくださっている訳であり，そういうことを若い方に対して他の方々が気にしていくなど。そのように運営を努力していく中で解決されるかなと思っていた。

＜委員＞
　承知した。

＜会長＞
　何かもっと具体的なアイディアがある方いらっしゃれば，ぜひ伺いたい。中々“若い”立場にならないと難しいと思うが。

＜委員＞
　今の文脈からいくと，若い人＝（イコール）学生さんというイメージだが。ただ，大学とか行かないで働いてる若い方もたくさんいる。その方への配慮が少し足りない気はした。もちろん若い人を募集しますということで含められるかもしれないけれど，今のその若い人達が減った中で，社会が求めている彼らが抱えている状況というのは彼らにしか分からない。そう考えると，学生さんを優先している書き方に違和感を覚える。

＜会長＞
　確かに，「若い世代」っていう表現とセットで出てきているのが「学生」。

＜委員＞
　これまでの前回，前々回の流れで「学生さん」だったのかもしれないけれど，その「若い世代」というと，働いてる方も若い方もたくさんいて，そういう方の意見ももちろん大事だと思う。うまく言えないけれど，学生さんだけに偏ってるのかなという気はした。

＜会長＞
　そうなると，「若者枠」くらいの方が良いか。「自称若者」が入ると困るが。

＜委員＞
　若年世代の定義を決めないと難しい。１８歳から何歳までとするか。

＜会長＞
　ここでの提案，事務局の方でということになるかと思うが，そのようなことで対象者を絞るということで「学生」という表現じゃない方が良いようにも思えてきた。様々な立場の若い人達とか…。

＜委員＞
　今はこういう会議もZoomなどを使ってオンラインでやる場合もある。学校は結構そういうのがあって，現場でこのように会っていながら，来られない学校の人達はオンラインで参加するといった形で同時進行する。「〇〇学校さんどうですか？」と現場の人がお話をして，それを聞いて発言ができるシステムがある。若い人達にとってはそのようなオンラインで参加するとい

うのも抵抗はないと思う。私たちにとってはそんなに身近ではないけれど，若い人はそのようなものに慣れていて参加しやすいかもしれない。家にいてもどこの場所に居てもできるという点では，すごく参加しやすい。もしかしたらそのような手法もICT機器を使用しながら参加していく方法として有効なのではないかなと思う。ただ，機器を担当課の方で準備しなければいけないので，色々と苦労するかもしれないが。

＜会長＞
　コロナ禍になってからこの市民参加推進会議もしばらく開催できないことがあり，その時に色々と開催方法について事務局も悩んでいた。それで遠隔というようなことも取り入れてという最中だったけれど，やはり会議の中身を考えると，これは対面で意見を言っていただくことが重要だということで，対面である必要があるということである。一方で，Zoomで気軽にというのは若い人達にとっては求められているものでもあるので，傍聴はできるようになっている。
　いつもあそこに傍聴の席があり，資料が置いてあるのを皆さんは御存知であったか。現場での雰囲気を感じてもらいながら，この会議に参加するかどうかということを検討する方には来ていただきたいというのがある。ただ，試験的に冒頭の５分間だけとかそれを見てもらえるような広報をしたら，もっと興味を持つ方も増える可能性はあるなとは思った。大学では今もZoomで授業をしているが，参加しなくても済んでしまうので，現場での議論が大事という，そのような会議に果たして向くのかという疑問はある。遠方で来られないとか外出が難しいなど，そのような事情の場合にはもちろん有効であるが，全員が見られる状態で，そして全員がマイクオンの状態でやらないと，質は保てないと感じる。若い人達はオンラインに賛成だと思うが，こういう会議はそこまで気軽ではないというのも，ぜひ知っていただき参加してもらえるような勧誘ができないものか。
　雰囲気を見てもらい「あっ，こんな感じなのか。ここに自分が座って意見を言って。すごい」と思ってもらえるような場面を見せることは有効かもしれない。先ほど若い世代と言ったら＝（イコール）学生と読めるような感じがするという，すごく大事な視点だと思う。先ほど私が様々な立場の若い世代の方々など，そのような学生だけではないというような表現の方が良いかと思う。

＜事務局＞
　前回資料19を使った際に，公募に関する内容の⑰「一枠でも『若い人専用枠』があれば，ある程度の強制力が生まれ若い人が参加しやすくなるのではないか」という意見を載せて審議したのだが，この時に「若い人枠ではなく，学生枠として枠を設けるべき」ということでお話をされていた。確かに市の規程でも２０代から３０代ということで位置付けてはいるが，「若い人枠」ということになると「特定の人材が欲しい」というこの意見とは直接的な関係が薄まってしまう。単なる「年代の枠」ということになると「特定の分野に精通した人材，学生」であったりなど，前回の会議でも少し話として出た「特定の職業に就いている人の枠」など，そのようなものと若干離れてきてしまうのかなというふうに感じる。前回「学生枠」としてぜひ盛り込んで欲しいという意見があり，今回このような形になったのではなかったかなと。そういう経緯だったと私は考えていた。

＜会長＞
　私も「学生枠」という記録は残っている。

＜委員＞
　経緯については確認しなければならないが，この文章を各機関に配布したときには学生に限るものではないのではと受け取られる気がした。

＜事務局＞
　学生については一つの提言としてあってもよいと思うが，それ以外の全般的な提案としては若い人というものをどのようにして応援していくかという視点の書きぶりが必要なのではないか。表現方法として，一つのアイディアとしての学生枠というのと，それから一般的にと言うか，広い意味で若い世代の参加者を今後どのようにしていくかという視点の文章とそれぞれ分けて混合しないような表現でこの意見書を構成できれば良いかなと思う。

＜委員＞
　第４回会議録の１４ページの上方に，この点について話し合ったことが書かれており，各委員会によって「このような方を委員に欲しい」ということで学生枠，社会人枠，若い人枠など，そのような枠を設けるという方向も良いのかなと思う。

＜会長＞
　より若いということで学生枠という提案があった。先ほど事務局からもあったように若い人＝（イコール）学生ではなく，学生は学生として扱い，意見書の３ページ目の（３）ア「若年層への働きかけについて」のところで「現在若年層（特に３０代以下）」という，学生で３０代の人もいるかもしれないが。「より若い」ならば学生の方が良いのではないかという意見が出ていたようである。

＜委員＞
　「学生」と「若い人」の話だけれど，先ほどの４ページの表現もあるので，若い人とは別に学生枠としてこのようなことが期待されるなら学生枠というか学生が委員になることを期待するという意味で載せておいた方がいいと思う。学生が増えれば必然的に若い人が増えると思うが，学生は専門的な教育等を受けている方が多いので，そのようなことを期待するということで若い人と別に考えても良いのかと思う。もちろん「それ以外の若い人も含む」というのも良いと思うけれど。

＜事務局＞
　オブザーバーと委員とはもちろん違う。ここで期待しているところが何かというところが問題になってくるかと思う。若い世代に参画してもらいたいからと言うなら特別枠で女性枠の話もあるのかもしれないけど，若い世代枠を設定するなら分かる。オブザーバーで皆さんが発言した趣旨というのは，「オブザーバーとしての参加」なので，その場にいてただただ見ているだけ。会議の雰囲気を味わったり，自分が次に何か参画する際の動機付けにしようとか，そのような趣旨でしかないと思う。オブザーバーというのは基本的には発言できない。途中で色んな話がごっちゃになったが，若い人を呼び込んできて一緒になって参画させようと言うのならオブザーバーではなく普通の委員である。
　特にそこで若い人にターゲットを当てたいのなら特別枠で若い世代枠を作るとか，そのような話なら整理できるかもしれない。例えばここに若い世代の参加を取組として考えるとしたら，一つはオブザーバーとして参加することで今後の自分の若い世代の動機付けにしていくとか，モチベーションを上げるなど，そのような趣旨で提言するというのはあるかと思う。
　だけど，会議そのものに参画してもらう人を増やしたいと言うのであれば，特別枠を工夫しながら構成を考えた方が良いのではないかという話なら何となく分かるかと思う。少なくともオブザーバーは発言できないことになっているので，その辺はしっかりさせておいた方が良いのかなと思った。

＜委員＞
　あとは募集要項に「旭川市に通勤又は通学している方」という，そのような募集の条件が書

いており，仕事されている方以外にも教育を受けている学生などに期待しているというのもあるのかなと思う。

＜会長＞
　この意見書の３，４ページの「幅広い世代の参加を促すための取組について」，３ページの（３）の提言で，ア「若年層への働きかけについて」があり，４ページにイ「学生枠の創設について」があり，アの「若年層への働きかけについて」を読むと，「現在若年層（特に３０代以下）の委員が少ない状況にあり，幅広い年齢層からの意見を聞くためには，積極的に若年層も公募委員として登用することが必要であり…」までは良くて，ここでまた「大学や専門学校…」と学生を出している。アも結局学生に対しての提案になっているから学生ばかりを若年層としているように読み取られてしまうことに気付いたがどうだろうか。下段の「声かけをする」というところで，その対象は学生だというような書き方ではない方が良いと思われる。

＜委員＞
　あるいはここに，一つの例として「大学に声をかける」とすると，少し表現が弱まるかなと思う。

＜会長＞
　働いていたり働いていない，もちろんそのような方もおり，学生以外の若い方にも参加してもらいたいが，そこへの働きかけの窓口を直接持っていない。そこで若い人という窓口があるとなると学生という，そのような発想が結び付き，そのような意見ばかりを出していた可能性はある。だがそうではない，学生ではない立場の方の参加も促さなければ偏ってしまうので，その方々に対しても参加してもらう必要があるということも読み取れる表現で提言する。そのことについて少し考えなければいけなかったかもしれない。オブザーバーはまさにオブザーバーなので。そこにいて見ているというか，そこで「はい意見です」ということはできないので，見て経験してもらうというだけのものである。では来年は公募に応募しようというような動機付けを期待するというだけになる。本当に「学生枠は学生枠」と独立して考えていかなくてはいけない。「学生」だけがターゲットということではないという表現に（３）アのところを少し変えるというような方向で検討していただいて，文案を考えていただくということでいかがか。事務局にお願いしてよいか。

＜事務局＞
　承知した。

＜委員＞
　少し戻ってしまうが，１の（２）イ「設置場所及び掲示について」で，チラシを市役所に置くのはもちろんだが，若者が集まるような例えば飲食店とかカラオケ店みたいな所とか，そのような所に置くということはできないか。若い人はそのような場所の方が目に付き，市役所で見る方があまりないと思う。目に付く所ということで掲示場所を変えて，そういった取組などキャラクターを使う等もあると思う。そのため設置場所を検討するというのはどうだろうか。

＜事務局＞
　駄目ではないと思う。そのぐらい考えていかないと，というぐらい困っているのは課題としてあることからすれば，そこに拘る必要はない。あとは，実際に内容とか担当する部署がどこまでやったかということになるので，そこは我々が窓口となって対応をしている。そのような点を踏まえた掘り下げ方をアドバイスしたりなど，そのような場面に活用することになると思う。デジタル手法の活用も大体同じであり，普段設置しているような，ありきたりに置いてあ

る所でしか見ないような人にも「しっかりターゲットにして周知しなさいよ」と言うのだとしたら，一つはデジタルというのもある。もう一つはこれまで置いてる所ではない場所に少し目を向けて，それを幅広くやっていくようにという，まさにそのような提言はあるのかなと思う。

＜会長＞
　もっと若者の集まる場所にというような，漠然とした内容で入れるべきか。

＜事務局＞
　今の御意見をいただいて，「設置場所を市役所に限る必要はない」というような提言はできるかなと思う。

＜事務局＞
　そうすると若者に限らず，では女性が目に付きやすい所などという，そのような考え方になったりとか。それは目的によって色々使い分けられるので，担当が色々と判断して選ぶということは可能だと思う。

＜委員＞
　市の機関だから市役所とか公的な所に行かなくてはいけないと私も思っていたが，これがもしスクールバスなどの中であれば，ちょっと見たらなんか書いてあるとか。

＜会長＞
　バスの広告もいいかもしれない。

＜委員＞
　広告とかQRコードで。

＜事務局＞
　まさに公募なので，そういったことは問題なく可能である。

＜会長＞
　イ「設置場所及び掲示について」に，市役所に限らない様々な場所や方法で広報も検討すべきと考えるなど追加するということで。

＜事務局＞
　表現については事務局で検討させていただきたいと思うが，「必ずしも市役所や公的機関に限ることはない」というようなニュアンスは付け加えてもいいと思うが，いかがか。

＜会長＞
　加筆していただく。

（一同同意）

＜会長＞
　会議を始めてから１時間が過ぎているが，実はあと１つである。６ページの（３），これで提言が終わりになるので，ここまでやってしまってもよろしいか。

（一同同意）

＜会長＞
　それでは６ページの（３）会議の開催時間帯についてである。こちらも含めて今まで一通り伺ってきたが，こちらと全体を通して御意見があればお願いする。

＜委員＞
　先ほどZoomというかオンラインも併用できるというか「対面式だけではなく，オンラインを含めたハイブリッドで進めることも可能」ということもどこかに入れた方が良いかなと思った。

＜会長＞
　会議が？

＜委員＞
　そうである。御苦労もあったかもしれないが，対面で全員参加できることはないと思うので。子どもがいる家庭の主婦が興味があって参加する時に，来られないということがないように，オンラインという手法も選択できる可能性に言及しても良いかと思った。

＜会長＞
　「会議の開催時間帯について」というのが，つまりそれは時間だけではなく，方法ということか。

＜委員＞
　そうである。

＜会長＞
　方法の検討まで広げたら解決ができるかもしれないということか。

＜委員＞
　可能性があると思うので触れていただければなと思う。Zoomで開催している会議もあるのか。

＜事務局＞
　集計は取っていないれども，いくつかは見聞きしている。私ども市民活動課のもう一つの附属機関である「情報公開・個人情報保護委員会」というものがあり，その委員会でもオンラインで開催したことがある。

＜会長＞
　そうなのか。実績というか，そのような現状があるならそういった表現をここに加えることは問題ないということになるか。

＜事務局＞
　手法を対面の開催と固定せず，もっと柔軟にできるのではないかというニュアンスで付け加えても問題はないかなと思う。

＜会長＞
　いかがだろうか。その表現とその一文も入れた方がいいだろうか。もちろんそれはそこの担当課がどう考えるか，どう決めるかということになろうが。そちらも加筆してもらうことにするか。「そこまでは…」といった意見はないか。

＜委員＞
　この意見書でそのように書いたとしても，既存の実施要領みたいなものがそのようなことを認めていないこともあるかもしれない。そうなれば要領を改正するという趣旨にはなるのか。

＜事務局＞
　場合によっては改正ということも検討する項目はあるが，オンラインに関しては既に取扱いとして認められているのでそちらに関しては問題ない。

＜委員＞
　承知した。

＜会長＞
　考え方はそれぞれであり，ここで言及してその結果取り入れるか取り入れないかは本当に分からないことではある。しかし，時間だけではないという視点は大事だと思うので，入れても良いかなと思うが，いかがか。追加するということで良いか。

（一同同意）

＜会長＞
　私がZoomなしでは仕事ができないような状況にいながら，なぜ否定的かと言うと，在宅で参加せざるを得ないというのはもちろん，後ろで１００人居ても分からないということ。勝手に放映されたとしても分からないのである。それは個人の責任の授業ならまだしも，このような会議の場合に，リスクのある状態というのは非常に危険に感じる。誰でもそのようなことができてしまうので，本当に何というか，性善説でこういうものは成り立っているので，安易にどんどんオープンにしていくということは慎重に，皆の合意を得ながら，段階的にやっていかなければ危ないかなというふうには思っている。
　では，外にないか。大分この意見書も皆さんに十分な御検討をいただいて，事務局に案をまとめていただき，更に本日見直しする所もあってより良いものになったと思う。いくつか事務局の方に改正案を作ることをお願いしたけれども，審議の方はこれで終了してよろしいか。

（一同同意）

＜事務局＞
　事務局から確認だが，今議論いただいた内容を踏まえた案の確認方法だが，事務局でまず本日の御意見を踏まえ改めて修正したものを郵送あるいは電子メールなどで直接御確認をお願いして，その結果をそれぞれに御回答いただくということでよろしいか。

（一同同意）

＜会長＞
　では，そうさせていただく。会議の最後に事務局の方から連絡をお願いする。

＜事務局＞
　今回で令和４年度の会議は全て終了となり，引き続き令和５年度の会議につながっていくが，初回の会議が４月下旬から５月上旬，場合によってはもう少し先となり，予定なので見通せない部分はあるが，そのような時期での開催を予定している。時期が近づいたら日程調整の連絡用紙と令和５年度にどのような審議や取組をしていくかということについて，具体的なものを

併せてお知らせしたいと考えているのでよろしくお願いする。

＜事務局＞
　新たなメンバー構成で進めてきたが，期間でいうと少し長い形で熱心な議論をいただいた。今この様子を振り返っても，簡単なようで非常につかみ所のない課題かなというふうに我々も思っている。少し例えが悪いかもしれないけれど，たまたま前の会議で，地域のまちづくりをやっている団体の会議に出てきたが，担い手不足だったり役員が高齢化したりなどよくある話題である。同じ市民や地域主体のまちづくりという意味では，この市民参加推進会議も同じだが，まちづくりの会議での永遠のテーマとして，町内会の加入率が低いということがある。若い方の加入が少ないとか，全国的に永遠のテーマである。今回の市民参加の会議も全国の自治体で色々と開催しているが，同様に公募とか，女性や若い人，そのような参画についても永遠のテーマかなというふうに思う。
　少しそちら側の話をすると，たまたま成功している地域は，先ほどの話でもあったが総会をオンラインで配信するとか，色んなイベント開催をする時に若い人を積極的に取り込むような魅力ある活動をしたり。今回色々と提言をいただいたが，同じような視点で，オンラインの話もあり，「学生枠」とかそのようなお話もいただいた。このようなことを行政だからなかなか難しいところもあるなどと言うつもりは全くないし，言わせないつもりである。けれども，新しいことを少し取り入れながらそのような提言になったとも思うので，会長からもあった「オンライン」については，リスク管理も必要だろうと思し，新しいところに向かっていくためには，そのようなことも経験しながらクリアしていく必要もあると思うので，そちらも併せて最後にいただいたお話なので，うまく事務局の方で文言をまとめてくれるだろうと思う。
　このあとは我々の方で各担当の方にしっかりと伝わるように，広く浅くという部分は確かにあるかなと思う。本当は個別に色々と考えなきゃならないこともたくさんあると思う。取りあえず，それぞれの担当課に考えなさいということを出すこともできるが，場合によっては残りの任期１年の中で，当然別のテーマも話し合いがされると思う。今回の根本の話になるので，もう少し掘り下げたいなと，もしかすると改めて出てくる可能性もあるが，そちらも含めて引き続き御協力いただければと思う。最後にお願いを申し上げて，お礼と共に感謝の言葉とする。

＜会長＞
　皆さんから意見を出していただきつつ，方向も少し修正しながら事務局にまとめていただき，このような形にすることができた。もう１年，よろしくお願いする。

Ⅲ　閉会

＜会長＞
　以上で令和４年度第５回会議を終了する。